



介護職場を守りたい

鈴亀労連がアンケート実施

介護職員へのPCR検査などを市に要請

新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。とりわけ介護施設で働く人たちは、自分が感染したら利用者さんに迷惑が掛かるので買い物や外出も控えるなど緊張の毎日です。そんな介護現場を助けようと鈴亀労連は鈴鹿社保協と共同で、緊急FAXアンケートを実施。鈴鹿・亀山の介護施設154件のうち88件(57%)から回答がありました。

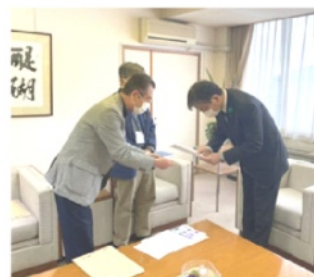
その結果を「介護事業所を守るための要望書」【別紙】にまとめ、鈴鹿市・亀山市などに提出しました。

亀山市では要望書を受け取った櫻井市長は、「ついに第4波、コロナは長丁場になる。介護現場にアンケートをされたことに、敬意を表します。介護現場へのサポートで、さらに必要なものがあれば取り組んでいきたい」と述べました。

鈴鹿市では中村昭宏健康福祉部長らが対応しました。「介護施設へのPCR検査(社会的検査)を一つの市だけで実施するのはむずかしい」という市側に対して、「近隣の市町と連携して県へ要望を挙げてほしい。私たちも亀山市、四日市市など近隣市町に働きかけていく」と協

力を呼びかけました。

鈴鹿市での懇談の様子は朝日新聞、伊勢新聞、中日新聞が報じました。
(裏面参照)



4月23日 亀山市役所
要望書を受け取る櫻井市長(右)



4月26日 鈴鹿市役所
健康福祉部長・広域連合部長らと懇談

にぎわうフードパントリー

白子コミセンで毎月フードパントリーが行われています。新型コロナウイルスの影響で生活に困っている学生や若者を支援しようという取り組みで、カンパでいただいた食料などを無料で提供しています。鈴亀ユニオンも「協力団体」として、

学生アパートにチラシを配るなどのお手伝いをしています。また会場では労働相談にも応じています。

●コンビニで働いているがシフトが減らされて生活が大変。

●ホンダ関連企業で10数年働くが手取り17万円位。昨年冬のボーナスが10万円減った。

●通勤途上バイクで転倒、骨折。労災でいつまで治療を続けられるか不安。

●職場の日本人はいい人ばかりだが、上司が私(日系ブラジル人)を差別する。

などの相談が寄せられました。次回(第5回)フードパントリーは5月29日白子コミセンです



4月4日 白子コミセン
第4回フードパントリー

65歳以下の組合員に医療共済をプレゼント計画中

病気などによる入院(180日)、安静休業(90日)に対する保障です。掛金は、組合費から支払いますから新たな負担はありません。現在執行部で検討中です。今しばらくお待ちください。

紙上メーデー実施

5月1日は働く者の祭典「メーデー」です。例年、四日市の諏訪公園で行われてきた北勢トワイライトメーデーですが、今年はコロナ禍の中「紙上メーデー」として実施。鈴亀ユニオンも写真で参加しました。同封の「第13回メーデーin北勢」をご覧ください。



組合費よろしく

組合費は月500円ですが、6か月分をまとめて前納していただいています。あなた様の組合費納入状況は左記のとおりです。未納の方はよろしく。郵便振替が便利です。

貴方の組合費納入状況は下記のとおりです。

【 】さん【 】まで納入済み

郵便振替をご利用の場合は下記に振り込んでください。その場合送金した旨メールでご一報下さい。

①ゆうちょ銀行 記号12260 番号11615381
名前スズカメユニオン

②ゆうちょ銀行以外から送金される場合は
【店名】二二八(読み ニニハチ)【店番】228普通預金
【口座番号】1161538



三重県労働組合総連合(みえ労連)

すずかめ Suzukame Union

鈴亀ユニオン

鈴亀ユニオンニュース 2021年4月30日

鈴鹿市白子4-4-3 フレンドハウス白子
Suzuka-shi, Shiroko, 4-4-3 Friend House Shiroko

Tel:090-1821-4997

【HP】 <https://suzukame-union.jimdo.com/>



身体・精神的「負の変化」6割超

介護職員が感じる重圧

鈴鹿、亀山両市の介護事業所の六割超が、新型コロナウイルス禍の業務で職員に精神的・身体的な負の変化が生じているとらえている。鈴鹿亀山地区労働組合総連合など二団体が合同で実施したアンケートで分かった。離職者が増えつつも補充ができていない深刻な現状がつかえ、職員にワクチンを早期に接種する必要性を指摘する意見も聞かれた。

(片山健生)

鈴鹿亀山地区労組総連など調査

市内内で高齢者の訪問介護や通所介護などを実施している事業所百五十四施設(鈴鹿百十％、「感じない」が48％と抵抗した。「面会制限で家族に会える自由回答では、サービスクラス、見放されたと思っただけの高齢者とともに早期の接種を望む意見があった半面、副反応を不安視する声が出ている。接問がなくなり、刺激が減って気分が不安定」「音楽(のレクリエーション)は発声が少なくなるとは、ある」との回答が67％に上った。感染リスクの重圧や外出の自粛を背景に、不眠や円形脱毛症、皮膚のトラブル、体重の増加などの事例が重なった。「利用者に触れた直後に消毒しているが、時間も要し、双方が気分を害している」「職員同士で会食できないため、業務に必要なコミュニケーションの確保に苦慮する」などの意見があった。退職者が出て補充できず、残った職員の負担が増す悪循環に陥っているとの運営者の嘆きもあった。変化は「ない」が31％だった。

の影響で利用者の身体機能や認知力が31％だった。

ワクチン早期接種など事業所向け支援 鈴鹿市に要望書

鈴鹿亀山地域労働組合総連合など2団体は26日、介護事業所の新型コロナウイルス対策に関して支援を求める要望書を鈴鹿市に提出した。

要望は7項目あり、介護事業所の職員がPCR検査をする際の費用補助▽感染防止に必要な物品を公費で支給▽職員向けの慰労金を公費で支給▽職員に対するワクチンの早期接種一など。鈴鹿、亀山両市の介護事業所に対するアンケート結果を踏まえて決めた。

市役所では、吉田一男副議長が中村昭宏健康福祉部長に手渡し



中村健康福祉部長に要望書を手渡す吉田副議長(左から2人目)＝鈴鹿市役所で

た。市側は後日、文書で回答するとした。吉田副議長は「介護事業所の現場の声を届けることができる。事業所も利用者も安心できる良い回答を期待したい」と話した。同様の要望書は亀山市と鈴鹿亀山地区広域連合にも提出しており、文書で回答するとの約束を取りつけている。(片山健生)

市内内で高齢者の訪問介護や通所介護などを実施している事業所百五十四施設(鈴鹿百十％、「感じない」が48％と抵抗した。「面会制限で家族に会える自由回答では、サービスクラス、見放されたと思っただけの高齢者とともに早期の接種を望む意見があった半面、副反応を不安視する声が出ている。接問がなくなり、刺激が減って気分が不安定」「音楽(のレクリエーション)は発声が少なくなるとは、ある」との回答が67％に上った。感染リスクの重圧や外出の自粛を背景に、不眠や円形脱毛症、皮膚のトラブル、体重の増加などの事例が重なった。「利用者に触れた直後に消毒しているが、時間も要し、双方が気分を害している」「職員同士で会食できないため、業務に必要なコミュニケーションの確保に苦慮する」などの意見があった。退職者が出て補充できず、残った職員の負担が増す悪循環に陥っているとの運営者の嘆きもあった。変化は「ない」が31％だった。